祝 創業125周年 設立80周年

あらゆるニーズに応える物流のトータルサポート

日向運輸株式会社

企画・制作：
読売宮崎広告社

広告

新春特集

物流のエキスパートである運輸会社といえども、運輸不可能な貨物があるのは然るべきであろう。しかし、かのパナソニック（松下電器）の創業者である松下幸之助が語った「とにかく、考えてみることである。工夫してみることである。そして、やってみることである。失敗すればやり直せばいい。」という言葉を体現するかのごとく、一運輸会社が、超特大タンクを運び、発電機用の巨大部品を運び、そしてセスナ機まで運ぶという、運べないものはないと言わんばかりに、重量物輸送へと果敢に挑戦しているのが日向市にある日向運輸株式会社である。さらに驚くべきは、宮崎県初となる豪華外国客船の誘致まで果たし、同社のチャレンジ精神は、もはや運ぶという概念を越え、とにかく「どんなことでもやってみる」という企業の風土として根付いている。

港湾荷役を発端に、海運から陸運に至るまで様々な物を運び続けて創業125年を迎えた日向運輸。そこで今日は、日向運輸株式会社代表取締役の吉永博幸氏に、創業125年に至る沿革や、各種事業の紹介、安全に対する取り組み、そして今後の展望に至るまで色々と話を伺った。

沿革

—まずは企業の沿革を。

吉永　明治23年に大阪商船株式会社が細島と阪神間を結ぶ貨客船の定期航路を開設するということで、その専属扱店として、地域の方々が合同で「合資会社日高回漕店」を設立したのが当社の創業となります。その後、昭和10年に「株式会社日向商船組」へと改組し、昭和26年には現在の「日向運輸株式会社」へと改称しました。今年は創業125周年、設立80周年の節目の年となります。一世紀を超える長い歴史を振り返ると苦難の時期もありました。

昭和20年後半から、発電所建設用の工事用セメント資材等の輸送を行うほか、昭和30年前半は戦後復興として、沖縄米軍資材調達部への建築用木材製材品の輸送作業を行うなど、順調に業績を伸ばしてきましたが、戦後復興が一段落すると物流量が減少し、経営が不安定な状態となってしまいました。しかし、その折に宮崎県が進めていた細島臨海工業地帯及び細島工業港造成が完成し、昭和36年には株式会社鐵興社（現：東ソー日向株式会社）の進出が決定、そして昭和37年に株式会社鐵興社等からの資本参加を受けることによって、工業原材料や化学製品の輸送作業という新たな事業を請け負うことが出来ました。これにより業績が安定し、その後の高度経済成長期には、装備の増強を図りながら、新規顧客の獲得に努め、多くのお客様に恵まれて現在に至っております。

本社外観

社内風景

各種事業

—苦難からの脱却を足掛かりに、輸送業としては珍しい事業にも取り組まれていますね。

吉永　畜産の盛んな宮崎県では、肥育牛の飼料となる稲わら・牧草等の粗飼料をアメリカ・カナダ・オーストラリア・中国等から輸入しております。当社は昭和59年に細島工業港の白浜地区に燻蒸倉庫を建設し、輸入粗飼料の荷役作業及び通関・保管業務を開始しました。こうした港湾荷役業務を担当する中、かねてから新たな事業の柱を模索していたことから、昭和62年に輸送作業に加えて輸入販売事業を開始し、現在は輸入から販売、配送に至るまで一貫体制で高品質な粗飼料を安定してお届けしております。生産者の方々からの評判も良く、全国和牛能力共進会（品評会）に於いて連覇を果たした宮崎牛を肥育されている生産農家への配送も行っており、陰ながら宮崎牛連覇の一翼を担えたのではないかと喜んでおります。

粗飼料を食べる牛

—輸送から販売まで幅広いですね。輸送に関しては、様々な重量物の輸送に挑戦されているとか。

吉永　当社には「依頼に対してNOは言わない」という企業風土が根付いており、どんな荷物でもまずは検討して挑戦してみる、という姿勢を大切にしています。それを象徴するのが、1992年、アメリカから輸入された10機の新型セスナ機をデバンニングする（海上コンテナから取り出す）という事案でした。誰も経験したことのない初めての事案ではありましたが、試行錯誤しながら無事にやり遂げることができ、この実績が評価され、2000年にはセスナ機の解体梱包とアメリカへの輸出という依頼をいただきました。セスナ機は非常に軽量な構造で、骨がない部分を持つだけで凹みが出来るほど繊細なため、梱包作業には大変苦労しましたが、綿密な段取りと繊細な作業を慎重に進めることで無事に輸送まで完了することが出来ました。今では九州管内のセスナ機輸送といえば日向運輸と言われるほど高い信頼をいただき、私達としても大変誇りに感じております。

他にも、2011年には東北火力発電所向けの排気ダクトの輸送依頼があり、重量物の陸路運搬は困難なため、一度岸壁で仮組みして異常がないことを確認した後に再び解体して貨物船に積んで輸送するという手間を有する作業も無事にやり遂げ、受注先からは、架台を利用した立体的な積付けによる輸送船隻数減少でのコスト削減提案、作業品質の高さに対してお喜びの声をいただきました。

セスナ機

—ひとえに重量物と言っても様々な物があるんですね。

吉永　そうですね。当社ではそうした特殊貨物や重量物運搬はもちろん、マンガン鉱石等の原料関係、二酸化マンガン等の電池材料、飼料関係などを主体に、港湾荷役から工場への配送、製品の輸送に至るまで、陸路・海路を通じて、一貫体制で行っております。また、宮崎県は杉の出荷量日本一ということで、近年はアジア圏、特に中国から非常に注目を浴びており、杉丸太の輸出は飛躍的な伸びを示しています。残念ながら細島港は中国への輸出に不可欠な病害虫の蔓延を防止する燻蒸処理を行う為の土場が狭いうえ、岸壁から離れていることから二次輸送費が発生する等の問題があり、これまで県産材の輸出は佐伯港や志布志港から行われていました。こうした状況の中、宮崎県の港からという地産地港を訴え続けた結果、ようやく県から認められ、今年の3月には新たに17号岸壁が完成される見通しとなりました。その後背地には1100㎡の燻蒸土場と14000㎡の原木土場が整備され、私達も非常に期待しております。

客船の誘致

—なるほど、やはり何事も声を挙げて挑戦していくことが大切だということですね。そうしたチャレンジ精神が高じて、2010年には宮崎県初となる外国クルーズ客船の寄港も果たしたとか。

吉永　きっかけは、船会社から届いた1枚のFAXでした。その中には、2009年に上海から乗客2000人を超える豪華クルーズ客船が寄港すると記されており、これも何かの縁だと誘致を決意し、県に対して外国船の寄港に必須となるSOLAS岸壁の整備を陳情した結果、2010年3月30日、宮崎県で初めて「LEGEND OF THE SEAS」という豪華客船の誘致に成功しました。以来、細島港へ寄港する客船の代理店業務を請け負っており、観光客の方々の喜ぶ顔を見る度に当時の挑戦を誇りに感じています。実を言いますと、この事業での利益はほとんどありませんが（苦笑）、地域貢献の一環として、日向市をはじめ、県内観光・経済の活性化に少しでも役立てれば幸いだと感じております。

LEGEND OF THE SEAS

安全への取組

—豪華客船寄港のニュースは度々耳にしていましたが、その陰に日向運輸ありとは知りませんでした。まさに縁の下の力持ちですね。話は変わりますが、輸送業と言えば安全面に対する取り組みが話題になりますが、貴社の取り組みは。

吉永　規制緩和によって輸送業への新規参入が増加し、コスト重視で安全面を顧みない企業も散見され、数年前から全国で長距離運転の事故等が相次いでいます。当社では安全・品質・環境の三つを柱に、設備投資や従業員の教育に尽力しており、昨年はテレビ電話で24時間点呼が可能なIT点呼を導入しました。また、ISO9001認証及び、全日本トラック協会から安全・安心・信頼を表すGマーク認証の継続と併せて、今年は新たに環境に配慮したグリーン経営認証の取得を目指していきたいと思います。こうした様々な資格の取得を基盤に、無事故・品質クレーム0の実績をこれからも積み上げていき、安全・品質・環境の三本柱をさらに強固にしていきたいと思います。

今後の展望

—最後に今後の展望を。

吉永　これからも企業風土であるチャレンジ精神を活かし、新規貨物の獲得や新規事業の開拓を進め、安全で高品質な輸送に努めていくとともに、今年は待望の17号岸壁が完成を迎えるということで、これまでお客様をお待たせしていた分、皆さまのご期待に応えていけるよう、より多くの実績を積み重ねて、さらなる業績の飛躍を目指していきたいと思います。

—ありがとうございました。今後のご活躍も期待しております。

（聞き手・田良島里佳）

本社屋とトラック

日向運輸株式会社

本社
〒883-0065
日向市船場町 1 番地 16
TEL0982-52-2148
FAX0982-54-8893

事業所 営業所
- 高鍋営業所
- 宮崎営業所
- 宇部三菱構内営業所
- 白浜事務所（稲わら・牧草販売）

日向運輸株式会社
代表取締役
吉永 博幸氏